

学校教育目標	「出あい ふれあい 学びあい 心がかよう 梅林の丘」 自分を大切にします (知・体) 仲間を大切にします (公・開) 心を大切にします (徳)			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題意識をもち、粘り強く取り組み、自分らしさを発揮できるようにします。</li> <li>○ 様々な人とのコミュニケーションを通して、相手の気持ちを考えながら、学び合えるようにします。</li> <li>○ 確かな判断をし、行動できるようにします。</li> </ul>			
学校概要	創立 60 周年	学校長 黒木 英晴	副校長 末永 圭子	3 学期制 一般学級: 15 個別支援学級: 2
	児童生徒数: 472 人 主な関係校: 浜中学校 小田中学校 杉田小学校 さわの里小学校			

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<グローバル化の中で生きる力>	浜中学校・杉田小学校・さわの里小学校・梅林小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他人を思いやり、地域社会に貢献できる子ども</li> <li>○ 「コミュニケーション能力」と「課題達成のために協力する力」を備えた子ども</li> </ul> <p>・あいさつ、時間のけじめ、話を聴く姿勢、場に応じた言葉遣い等、日常生活での習慣づけを意識し日々取り組んでいく。</p> <p>・小中合同教科研究会や児童交流日等研究や交流を重視し、子どもたちが安心し、期待感をもって中学校進学ができるように学校生活両面での小中学校のスムーズな連続を目指す。</p>

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校・地域の特色を活かした教育課程の運営、改善を進めます。</li> <li>○ 「楽しくわかる授業」による確かな学力の向上と個に応じた指導の充実を図ります。</li> <li>○ 豊かな心とたくましい体を育てる健康教育を推進します。</li> <li>○ 子どもたちが安全・安心して豊かに学び育つ支援体制の確立を目指します。</li> <li>○ 信頼で結ばれた活気ある教職員協力体制の確立を目指します。</li> </ul>
--------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①重点研究のテーマを「自ら進んで、粘り強く、協同的に学び、思いや願いを実現する子」と設定し、自力解決やペア学習、グループ学習などを多く取り入れ子ども達の学び合いを意図的に増やし、主体的に問題解決していく力を育成する。②「問い」を工夫し、子ども達が自分たちで課題を設定し、解決することができるようにする。③学校の特色を生かした教育課程を編成する。
豊かな心	①「道徳の時間」の教材研究を充実させ、自他の良さを認め合う心情や態度などを育てたり、思いやりの気持ちをもってだれもが安心して友達と仲良く学校生活を送れたりするようにする。②全校遠足、交歓給食、運動会や集会活動だけでなく、学習面での交流を増やし、異学年同士のつながりを深めるようにする。③学校の特色である梅と子ども達が関わる「梅単元」の活動を年間を通して充実させる。
児童生徒指導	①「学校のきまり」を全職員で共通理解し、全職員が同じ指導ができるようにする。特に、あいさつをすることや時間を守ること、場に応じた言葉遣いなどの力がさらに身につくようにする。②児童支援専任・特別支援コーディネーターを中心に月に一度の職員会議の際には、児童理解のための情報共有を定例化し、児童の状況について共通理解を図る。
健やかな体	①運動委員会の「イキイキキッズ」の内容を充実させ、子ども達が運動する楽しさを味わえるようにする。②体育の「保健」や特活(2)(3)のカリキュラムを見直したり、養護教諭やゲストティーチャーと連携した授業づくりを行ったりする。
特別支援教育	①個別支援学級と全校とのかかわりや交流を、個別支援級の担任を中心に意図的・計画的に行う。②特別支援教室がうまく機能するように、アシスタントティーチャーや保護者ボランティアを活用して人的配置を工夫したり、教室の環境整備を行う。
地域連携	①地域の行事等に職員が進んで参加し、児童の健やかな成長を見守る。②幼保小での交流を、推進地区3年目のまとめとして意図的・計画的に行う。
いじめへの対応	①「いじめ防止対策委員会」を毎月開催し、児童理解、いじめの認知等、教職員で共通理解を行う。②子ども会議や、小中サミットの内容を、全校に発信したり、全校でいじめについて考える機会を増やしたりする。
人材育成・組織運営 (働き方改革)	①メンターチームが指導者としての力量を高められるように年間計画をしっかりと立て、自ら学ぶ姿勢を高められるようにする。②校務分掌を一部プロジェクト化し、職員全員で仕事が機能的に進められるようにする。③各自の経験や強みを生かした組織作りをする。